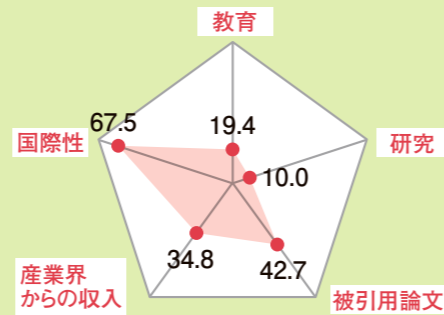




学生数 / 1228人 学部 / コンピュータ理工
 大学院 / コンピュータ理工学
 ▶ THE 世界大学ランキング日本版 2017 / 23位

指標	スコア	順位	参考データ
総合	21.6-30.6	601-800位	ST比率 / 11.5
教育	19.4	801-1000位	留学生の割合 / 3%
研究	10.0	801-1000位	
被引用論文	42.7	501-600位	女男比 / 13 : 87
産業界からの収入	34.8	601-800位	
国際性	67.5	201-250位	



取り組み体制

- ▶ 各種ランキングの対応はグローバル推進本部で対応
- ▶ 研究・教育の国際戦略は、国際戦略室が担当

分野	重点度	取り組み	指標
教育	○	▶ 若手研究者の育成(学部・博士前期課程5年一貫教育プログラム) ▶ 学生の提案力、実践能力の育成(ものづくり道場の開設、体験工房型教育)	・博士号取得者の増加 ・評判調査の向上
研究	△	▶ 研究内容の発信(国際会議・海外インターンシップに参加した教員、大学院生が自らの研究成果を報告する場を設けるなど) ▶ 国際的に活躍できる研究者、技術者の育成(複数の専門分野を横断して研究する「創造工房セミナー」や「投稿論文執筆セミナー」を大学院博士前期課程で実施)	・評判調査の向上
被引用論文	△	▶ 国際共同研究の拡充(教員、教員OB等の国際的な人的ネットワークの活用、強化)	・研究の質向上 ・被引用論文数の増加
産業界からの収入	○	▶ 大学発ベンチャーのさらなる推進と強化 ▶ 研究シーズの特許化の推進、研究申請に対する協力支援	-
国際性	◎	▶ 優秀な外国人教員の確保(教員採用の国際公募の継続) ▶ 学部留学生の受け入れ環境整備(「ICTグローバルプログラム全英語コース」の設置と、それに対応する入試方式の導入)	・学部留学生の増加

*各大学による重点度 ◎:より一層伸ばす強み ○:課題あり △:今後力を入れていきたい

注目! 外国人教員の活躍を支える 学内環境の整備

国際公募で教員を採用している会津大学は、外国人教員が働きやすい環境を整えている。学内に専門相談員が常駐し、ビザの申請や引っ越しの手配、家族のケアなど、さまざまな生活サポートに応じる。また、学内公用語は英語と日本語。日本人向けメールも、全て英語を併記している。

教員のキャリアパスについても日本人、外国人の違いはない。3年に一度の雇用審査があり、昇進も公平。現在の部局長クラスの半数は外国人だ。こうした環境の整備、向上に長年取り組んできたことが、今回の「国際性」のスコアに反映された形だ。



会津大学

海外への発信と共同研究を強化 外国人研究者のネットワークを生かす

今回、初めてランキングを果たし、日本の大学の中では国際性が出色の会津大学。ランキングまでの軌跡と今後の展望を聞いた。

開学当初から取り組む 国際化対応が評価される

本学は、地方都市にある開学25年足らずの小規模大学で、国際的な知名度が決して高いわけではありませぬ。また、大学全体の論文数や研究費収入も大規模大学と比べると限定されたものです。そのような中で、今回、初めてランキングにできたことは大きな喜びと自信になりました。

分野別に結果を見ると、「国際性」のスコアが際立っています。本学は「グローバル」「ICT」「ベンチャー」をコンセプトとして掲げて設立した大学です。そのため、教員や研究者は世界中から公募しており、外国人教員比率は約4割です。国際性の高さについては今後もこだわり、教員だけでなく、留学生の増加にも力を入れていき

ます。現在、大学院生の約3割が留学生ですが、学部でも留学生を増やしていく予定です。学生の多様化はキャンパスの活性化など、日本人学生にいい刺激を与えるからです。

2016年度からは、初年次から英語のみで教養科目と専門科目を履修して卒業できるコースを設置し、これに対応した特別入試(外部英語検定試験のスコアと国際バカロレア、SAT等の成績を活用)も実施しています。加えて、中国とベトナムの有力大学と3年次編入の留学協定の締結を進め、学生を受け入れています。

しかし、多くの留学生の受け入れは一朝一夕にできるものではありません。寮や奨学金の整備、生活サポート体制の確立、授業のアレンジなど、一定の時間をかけて体制を整え、取り組んでいきます。

世界で認められる 大学発ベンチャーの育成

今後の最重要課題は「研究」被引用論文」です。それには、エルゼビア社のデータベースに入る論文の数をそろえ、かつ内容も国際的にインパクトのあるレベルにすることが必要です。教員にはこれを意識して研究に励んでもらいたいと伝えています。

また、海外で研究報告することも大切でしょう。本学は毎年、シリコンバレーで学生のインターンシップを実施していますので、これに教員・大学院生も同行し、彼らが研究発表する場を設けることなども考えています。

国際共同研究については、これまで培ってきた国際的なネットワークが大いに活用できるでしょう。在籍中の外国人教員に加え、



グローバル推進本部長・副学長 程子学

ていしがく ● 1993年東北大学工学研究科工学博士号取得。同年、会津大学講師就任。2002年から教授。同大学産学イノベーションセンター長、コンピュータ工学部門長を経て、2014年より副学長、2015年度より本部長を兼任。専門はコンピュータネットワーク。

取材・文 / 本間 撮影 / 那智上 智

過去に在籍した研究者、留学生などとのつながりを生かし、コンピュータ工学分野のトップ大学との共同研究を積極的に推進していきます。

世界的なランキングで評価されたことは大学の国際的な認知拡大と学生募集広報によい影響が期待されます。一方でランキングに左右されなく、本学が本来果たすべき役割もしっかり果たさなくてはなりません。例えば、大学発ベンチャー数は、THEの指標にはなっていませんが、ベンチャーは本学の開学からの特徴の一つです。これまで多くのベンチャーが育っていききましたが、より質の向上を図っていき、長期的な視野に立った国際レベルで認められる企業を育ていけば、結果的に大学の国際競争力の向上につながるでしょう。

*アメリカの大学能力評価試験